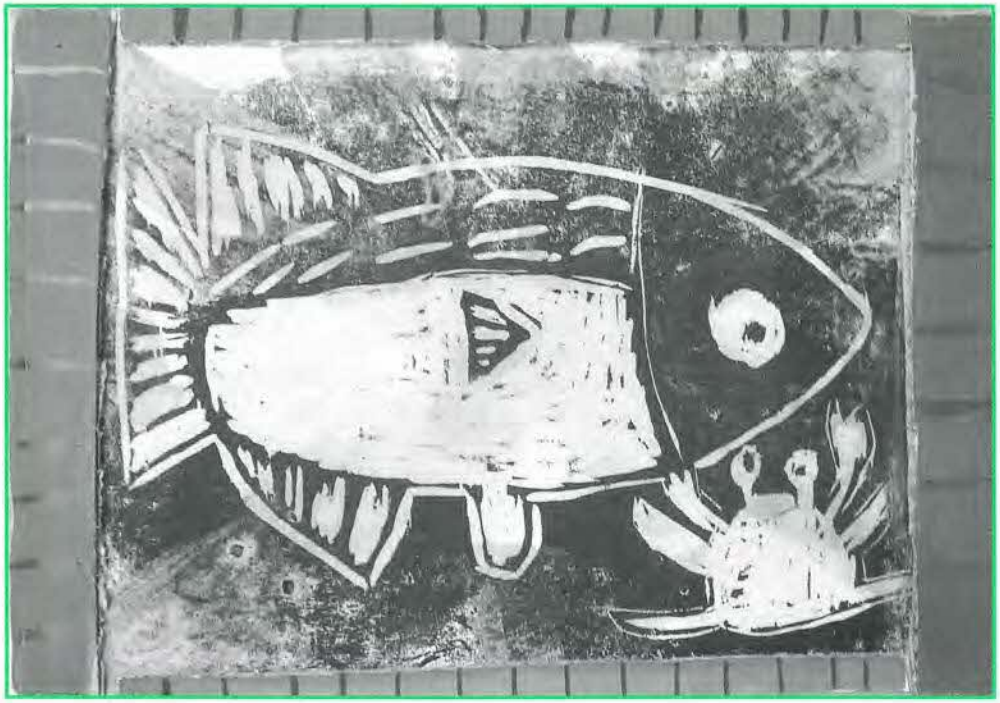
第26号

さくら

題字 足立区長 近藤 やよい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行
足立区民生・児童委員協議会
会　長　中田貢弘
編　集　広報部会
発行日　2011年7月1日
〒120－8510
足立区中央本町1－17－1
TEL　03－3880－5111



梅島小4年　川﨑純大　作「大好きな動物　『魚』」

目　次

新合同会長紹介 2
こころの健康フェスティバル
新合同会長紹介 3
退任者感謝状贈呈式
災害ボランティア 4
街かど福祉 5
子育て応援団 6 7
民生・児童委員OB会 8
編集後記

大震災を通じて思うこと

会長　中田　貢弘

この度の大震災において、お亡くなりになられた方々に対し、ご冥福をお祈りいたします。また、被災に遭われた方々に対しお見舞い申し上げます。

さて、震災後の民生・児童委員の優しさ（人を憂うる）を改めて感じています。足立区社会福祉協議会の呼びかけに誰一人異論もなく、544名全員が支援品を拠出してくださったこと。また、全国民生委員児童委員連合会の呼びかけに全委員が義援金を直ちにお集めくださったこと。さらに、福田東京都民生児童委員連合会会長の呼びかけで、被災地の民生・児童委員協議会にお見舞いを送ることにも、25地区会長が先頭に立って地区ごとにまとめあげてくださったこと。「明日は我が身」ということを委員一人ひとりが持ち続けています。

ある会議終了後、福田会長は、私に「『人の為に』と言ってはいけません。なんとなれば『偽』だからです。自分の為、地域の為、世の為が正しいと思います。愛の反対語は、無関心です。愛をもって、これからも委員の方々のお力をお借りし、努力していきたいと思っています。」と話されたことを紹介いたします。

新合同会長の皆様

第一合同　柳川峯子会長

皆様と力を合わせて

第一合同である千住地区は、再開発があり、急速に少子高齢化が進む一方で、新しい世代の流入という社会構造の大きな変化があります。また、民生・児童委員の役割、活動内容も多岐にわたり増加している現状です。民生・児童委員、協力員一人ひとりの活動が生き生きと心豊かに進められるよう、必要な情報を共有し、そして意識を高め合い支え合いながら活動出来るよう、努力していきたいと思います。各地区の意見を尊重し、委員の皆様が地域福祉の推進役として、区民が安心して住み続けられる地域社会づくりに貢献出来るような協議会にしたいと考えています。行政を始め皆様のご指導とご協力、深いご理解をいただきながら務めさせていただきます。

第二合同　吉田幸雄会長

目配り・気配り・思いやりを大事に

私は、民生・児童委員として28年間活動を続けてまいりました。問題は、年々多様化・複雑化しています。地域の皆様が安心出来るよう、相談者の身になって素早く対応、解決したいと思っています。一人で悩まず関係機関と連携し、問題を抱えている人達の救済解決の糸口を見つけ、努力していきたいと思います。また、この地域、地区の新任委員の皆様を大切に指導し、目配り、気配り、思いやりを大事にしてほしいと思っています。小学校、中学校と交流を持ち、幅広い分野で活動を行い、地域の発展のため、頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

第三合同　中山佳子会長

合同会長を引き受けて

昨年12月の民生委員の一斉改選により、地区会長の経験もないまま一足飛びに合同会長という大役をお受けし、その重責に緊張しております。

昨今の厳しい社会状況の中、各委員のご協力をいただき地域の福祉のために、民生委員児童委員信条を原点とし、微力ながら精一杯の努力をしたいと思っております。

このたび、約4分の1の委員が入れ替わりました。歴代の先輩委員が築いてこられた豊かな経験に加え、新任委員のフレッシュな力で、地域住民と行政のよいパイプ役ができればと考えています。私自身も健康に留意し、会長としての責務を果たす所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

第15回こころの健康フェスティバル

heart to heart　～ゆたかな心がつくるまち～

3月5日、足立区主催の「第15回こころの健康フェスティバル」が開催されました。

天候にも恵まれ、お客様は例年より多く、バザー実行委員会の運営や販売などの努力により、午後1時頃には完売となり、昨年を上回る売り上げとなりました。

本年度の売り上げは604,411円で、全額を足立区社会福祉協議会へ寄付しました。

庁舎ホールでは、開会式に続き15回目を迎えた「こころの健康フェスティバル」に協力した団体への表彰式があり、近藤区長から足立区民生・児童委員協議会を代表して中田会長に感謝状を授与されました。

午後からは、「精神保健福祉の15年の歩みと明日」との議題で、第15回開催記念シンポジウムが行われました。

倉橋足立保健所長が議長となり地域、福祉、保健、教育のそれぞれの立場（3／5当時）から丸山区民部長、有賀福祉部長、三橋衛生部長、鈴木学校教育部長よりこの15年間を振り返り、経過報告と今後の課題、対応について説明がありました。

また2階ホール前ホワイエでは、当事者座談会『こころのしゃべり場』があり、「障がいがあっても暮らせる社会」について、当事者本人及び家族の方から忌憚のない意見がありました。特に「うつ病」と「統合失調病」の病気に関して、健常者には理解されにくいことが問題であるとの指摘があり、「暮らしやすい地域」実現のためにも、民生・児童委員として役立つ有意義なものとなりました。

（広報／18地区　鶴田晴久　記）
（広報／佐野地区　木内信雄　写真）

新合同会長の皆様

第五合同　飯塚茂会長

人の温もりと奉仕を地域に

今期より第五合同会長に推薦されました「江南・新田地区」の飯塚茂と申します。歴代の合同会長がしてこられた地域福祉推進活動の発展を引き継いでまいりたいと思います。民生委員活動も戦前の「済世顧問制度」を導入してから95年になろうとしています。初期の頃は、福祉に対する関心がまだ低く、関係者の努力は大変であったと思います。

近年、家族や地域社会の絆が弱まり、孤立した人々が増える中で、民生・児童委員が益々重要性を増してきているのではないかと思われます。私達は常に人の温かさと奉仕を地域に届け、その時々の中で福祉を進める民生・児童委員を目標としていきたいと思っています。皆様方のご支援とご協力、よろしくお願いいたします。

第六合同　山本祥一会長

重責に身を引き締めて

昨年の一斉改選により合同会長をお引き受けいたしまして、その重責に日々身の引き締まる思いでおります。昨年は高齢者の所在不明が全国で問題になったり、わが子の虐待が大きく問題になり、家族・地域の絆が弱くなってきたことを強く感じます。

あらためて、民生・児童委員のあり方について考えさせられる機会となりました。

これからは少子高齢化や核家族化がますます進むでしょう。それにつれて地域での施策も多岐、複雑化してくると思われます。私達も、地域で信頼される相談者となるべく、より研鑽を積み、微力ながらも経験を生かした絆づくりを広め、安心して住みよいまちづくりへ向けた努力をしていきたいと思います。

第七合同　宮崎十三会長職務代理

行事を楽しく遊び心で

3月の年度末に大きな行事「こころの健康フェスティバル」があります。今年で15回目となりましたが、中田会長が実行委員長として就任後、バザー担当として民生・児童委員が受け持つことになったと記録しています。初代実行委員長は今は亡き中村新一会長。2代目は、関根眞教会長。3代目は私、どうやら職務代理がこの担当のようです。毎年この時期は寒いのですが、皆元気で朝9時より各地区から選ばれた25名の実行委員を始め、各会長、福祉部の皆さんで、私達民生・児童委員500数名から提供された品々の運搬、値付、種分、陳列そして販売。プロ並の手際の良さに感服しました。皆さんのご協力により楽しい行事が出来、心より感謝いたします。ありがとうございました。

なお、この収益金は社会福祉協議会を通して、後日フェスティバル参加の障がい者団体に活動費として配分、寄贈されます。こうした活動に喜びを感じ、私達の団結力、絆の深さを痛感した一日でした。

1月24日　退任者感謝状贈呈式　足立区役所

睦月の寒さ厳しい中、11月末日で退任された117名の民生委員・児童委員の方々に対し感謝状贈呈式が盛大に行われました。

近藤やよい足立区長から、永年の活動に対する労いの感謝の言葉とともに、それぞれの代表者へ区長（全員）・厚生労働大臣（在職6年以上）・東京都知事（在職1年以上）の感謝状贈呈がありました。

退任者は、退任までの任期を全うして満足した表情の方、重い責任を感じつつ無事に退任を迎えてホッとする方、退任後に別の分野で活躍する予定の方など十人十色の様子でした。

退任者の代表挨拶では、宮田壽美子前第三合同会長が、「民生委員・児童委員の委嘱を受けてから長いようで短い30年でした。」と話されました。任期を振り返っての思い出として、身寄りのない認知症高齢者の女性と関わったエピソードについても話されました。

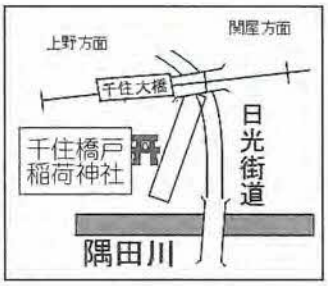
単身高齢者の孤立化が叫ばれる中、「孤独」は大きな不安となり、生活に支障を及ぼすものでもあります。「人とのつながり」の大切さを地域社会に伝えていくことが民生委員・児童委員としての大切な役割ですというお話でした。

（足立区福祉部　記）

ぶ ら り 足 立

足立区の南の端にある千住橋戸町は、松尾芭蕉が“奥の細道”の第一歩を記した所で「行く春や鳥啼き魚の目は泪」の句が詠まれた場所です。新井政次という人が荒川から千寿観音像をひろった故事から、千住になったという説があります。

千住橋戸稲荷神社本殿には、伊豆の長八の鏝絵（こてえ）が描かれており、ご開帳は年3回、2月3日の節分・5月15日の例祭・9月15日の例祭（日曜日に近い日）に奥の院が開かれます。普段はレプリカが鑑賞出来ます。お近くにお越しの節は、ぜひお立ち寄りください。



（広報／3地区　池田信江　記）

「みんなで楽しく荒川ウォークラリー」

3月6日、荒川河川敷において青少年対策興本地区委員会主催のウォークラリーが開催されました。今回で10回目。毎年参加者も増え、今回も前年を上回る800名以上の参加者がありました。

4～6名のグループになってラリーに出発。途中8カ所のチェックポイントがあり、問題が出題されます。参加者は計24問のクイズを解きながら歩きます。「地域の皆のコミュニケーション、ふれあいを深める」というのが目的のラリーです。それが、問題にも反映していて、大人なら簡単な問題も子どもにとっては超難問です。「ねぇおじさん。答え教えてよ」とか「ボクこの答え何？」など、大人と子どもの会話に花が咲きます。顔は知っていても話は初めての参加者もたくさんいます。このラリーをきっかけに「おはよう」「こんにちは」の挨拶をする人が増えると聞きました。まさに主催者のねらい通りです。

ゴール地点では豚汁、やきそば等がふるまわれ、さらに会話の輪が広がります。このような取り組みから、地域の方々のふれあいが深まり、明るい町になることを実感しました。

（広報／8地区　加藤宏一　記）

もしものときあなたはどうする？
～地域で考えよう！　災害ボランティア～

主催　足立区ボランティア連合会
足立区社会福祉協議会

2月18日、竹の塚地域学習センターにおいて災害ボランティアの研修会がありました。

第1部　講演会「足立区の災害時を考える」

今井伸幸氏（足立区災害対策課長）

阪神淡路大震災の教訓を、足立区の地域特性に合わせて、震災や風水害に生かす取り組みについてのお話でした。

第2部　パネルディスカッション

「足立区の災害時を考える～私たちボランティアにできること～」

パネリスト　今井伸幸氏、柳川峯子氏（足立区民生・児童委員協議会第一合同会長）、箭内邦安氏（日本防災士会足立区支部長）、笹子隆雄氏（西新井中学校長）

コーディネーター　緑川フミ子氏（足立区ボランティア連合会副会長）

災害ボランティアとは、まず自分の安全を守る「自助」、ご近所同士助け合う「共助」が大切である。それには、平常時から近所との交流や、自分には何ができるか考えることである、とそれぞれ実体験を基にしたお話でした。

特に柳川会長の実際の火災の時のお話は、いかにきめ細かく地域内の把握が大切かを痛感しました。また、72時間以内の安否確認の必要性については、民生・児童委員としてかくあるべきとの思いを新たにしました。

（広報／9地区　秋本雅信　記）

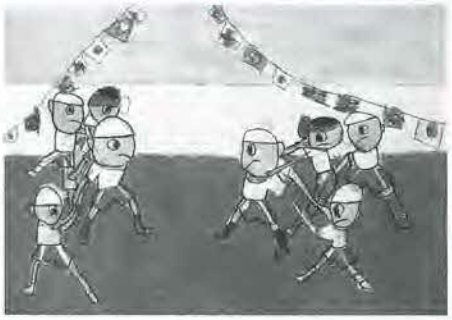
民生委員・児童委員発
災害時一人も見逃さない運動

街かど福祉　その４　不動産屋さん

核家族化が進み、高齢者の単身世帯が普通になってきた今、住む場所を提供する窓口になる不動産屋さんからお話を聞いて来ました。

不動産屋さんの仕事は物件を斡旋紹介するだけでなく、斡旋した物件に快適に住んでもらうことも重要な業務だそうです。高齢者の生活保護単身世帯の場合、ほとんどが管轄の福祉事務所の紹介で、金銭的にはしっかりしているため、身元引き受け人、緊急連絡先のある人は、入居は比較的スムーズに進むようです。入居された後も、住まいに関する苦情等は入居者から福祉事務所へ直接伝えるので、事務所からの要望に答える態勢を取っているとのことです。

ある程度は想像していましたが、身内、友人もいない天涯孤独の高齢者単身世帯の場合、入居はほとんど無理という厳しい現実を見ました。昔から「大家と言えば親も同然」という言葉があるように、きめ細かいサービスを心がけているそうです。



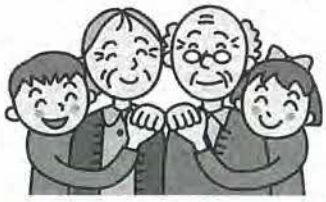
六木小５年　佐藤摩耶　作

（広報／8地区　加藤宏一　記）

つながる社会をめざして（無縁死からの脱却）第２回　老い支度をお手伝い

平成22年8月、足立区と都市再生機構（以下、URと略します）との事業連携の締結式が大きく報道されました。区内のUR賃貸住宅を活用して、子育て世帯や高齢者を支援する全国初の試みです。

高齢者の事業の中心は、一人暮らし高齢者の24時間見守りサービスの導入と、高齢期の生活上の悩みをなんでも相談にのってくれる身近な窓口を集合住宅内に常設するというものです。これらの事業をモデル的に行う一方で、親族からの支援が期待できない高齢者自らが、自分の老後の危険を理解して、その予防策を準備することの大切さを呼びかける動きが始まっています。



前回ご紹介した社会福祉協議会の高齢者あんしん生活支援事業もその一つですが、任意後見制度や遺言作成、自分の葬儀・埋葬の費用のみを準備する保険商品、エンディングノート作成の勧め、寺院との生前契約等。このように、身寄りのない自分の老後に必ず訪れる危機に対して、周囲に迷惑がかからないように準備するための制度や商品が、だんだん周知されるようになってきました。

しかしその一方で、保証人ビジネスのように多くのトラブルが起きているサービスもあるため、高齢者は自分の老後に備えたくても、何を選んだら良いのか立ちすくんでいます。このような状況の中で行政と区民、そして介護保険事業者等がどのようなお手伝いができるのか、「老い支度支援検討委員会」でその方法が平成21年度から検討されています。

（足立区福祉部中部福祉事務所　記）

老人保健施設「しらさぎ」見学会

医療法人社団福寿会が運営する老人保健施設「しらさぎ」は、梅島駅近くにあります。疾病や怪我の治療後、帰宅までのリハビリ施設として、30日以上3カ月程度入所利用できます。また、在宅の方には、短期入所として30日以内のショート・ステイが利用ができ、これは在宅介護者や家族側に利便性があります。リハビリ内容としては、身体理学療法、作業療法、言語療法があり、スタッフは16名で対応しているとのことでした。

各階のフロアはとても広びろとしていて、廊下の幅も広く、ゆったりとした雰囲気でした。3Fのフロアでは、自由時間を過ごす人の表情も明るく、生き生きとした印象でした。施設側の話としては、入所利用者の期間が長くなりつつあり、新規入所を長く待つ人が多くなっているとのことでした。

（広報／6地区　森春枝　記）

さくらバックナンバーが区役所のホームページから見られます。区役所トップページから検索で「さくら」と入力するとさくらPDFが見られます。
URLは　http://www.city.adachi.tokyo.jp/007/d03800035.html
是非ご覧になってください　　広報部会

子育て応援団――足立区初の施設一体型小中一貫校　新田学園

六木小４年　松浦冬瑚　作

新田学園では、ひとつ屋根の下で１年生から９年生（中学３年生）が勉強をしています。日常生活や学校行事における交流が、他の学校に比べてダイナミックに展開されています。

教育目標は「地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、国際社会において未来を切り拓く心豊かな児童・生徒を育成する～「自ら学ぶ人」「共に生きる人」「健やかでたくましい人」～」です。

児童・生徒が新田という町を愛し、そこで培われた素晴らしい伝統と文化を継承しつつ、これからの国際社会で大いに活躍してくれる人に成長してくれることを願っています。

そして、新田学園の教育をとおして、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒を育成していきたいと考えています。

（新田学園　石鍋浩校長　記）

土曜チャレンジ教室

関原小学校において、７年前より１カ月に１回の割合で土曜チャレンジ教室が開かれています。教室は囲碁、将棋、日本茶、和太鼓、パソコン、アタック学習、ビーチボールバレー、卓球に分かれ、地域、保護者、第七中学校のボランティアの皆様のご指導により行われています。

1. チャレンジすること
2. 仲間作りをすること（縦割り）
3. 感謝の気持ちを持つこと

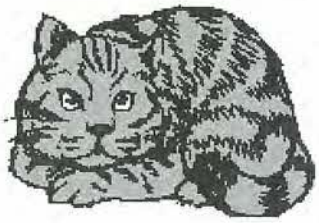
以上を目標に、取り組んでいます。昨年度は東京都教育委員会から賞状も授与されました。閉室式では子ども達から「最初は心細さでいっぱいだったが、だんだんと教室が待ち遠しくなった」との言葉も聞かれ、最後に各指導者の方に感謝の手紙が手渡され、心が温かく感じられました。

（広報／７地区
井上みよ子　記）

“ノラ猫対策”について

足立区では、ノラ猫対策として地域猫活動を検討しています。その中で高齢者がペットを最後まで責任を持って「終生、飼養」できるかが、ひとつの問題になっています。

犬、猫の寿命はおよそ15年、家庭の一員として迎えたら飼うのをやめることはできません。病気にかかれば治療が必要となり、高齢になれば介護が必要になることもあります。そして最後をみとどけなければなりません。



犬、猫を家族の一員として迎えるには、家族みんなが賛成していますか？　一緒に暮らせる住環境ですか？　食事・排泄物・しつけ・散歩等、毎日きちんと世話ができますか？　ワクチン接種、病気の予防や治療、健康管理ができますか？　経済的負担は大丈夫ですか？　このような条件をクリアして初めてペットと共生できると考えています。

自分勝手にペットを手放したり、衰弱させたり、放置することは虐待にあたります。愛情と責任を待ってペットを大切に飼うことが、ノラ猫を増やさないことに結び付くと思います。

このような観点から、中川地区隅田自治会１班では足立区で最初の試みとして、１月から飼い主のいない猫を増やさないために、高齢者の方々のご理解ご協力を得て、無責任な餌やりの禁止を含めた地域猫対策を始めました。猫と共生できるよう不妊、去勢手術までの実績をあげております。

（広報 /18 地区　鶴田晴久　記）

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう　地域に根ざした　思いやり

子育て応援団――“がきんちょ”ファミリー

“がきんちょ”ファミリーとは、地域のジュニアリーダー研修会で顔を合わせた大人と子どもの有志が始まりです。「子ども応援団」と「地域ジュニア」の関係を継続したいと思いました。その結果、平成15年から少しずつ進化し、平成22年秋に足立区のNPO任意登録団体となったのです。「あだち協働パートナーサイト」からの情報開示・伝達もできるようになりました。

北三谷小１年　佐竹勇祐　作

現在は保塚地域学習センターレクホールを拠点に「青少年の居場所ほつか」のイベント企画運営を担当しています。子ども達が名づけた“年始会”“弥生会”……“師走会”と、季節に応じたイベントを子ども達とともに催し、楽しんでいます。平成23年4月より「青少年の居場所」と同時に“がきんちょ”ファミリー独自の講座を開催予定です。

子ども達には、自然な生活のふれあいの中で、刺激を与えてくれる大人の存在が、また、たくさんのおしゃべりを聴いてくれる大人が必要なのです。“がきんちょ”ファミリーでは、大人も子どもも“がきんちょ”なんです。一緒に成長し、生きていきたい。現在0歳～70代のメンバーです。つながりは様々、だから、おもしろい。

（17地区　大山光子　記）

「家族で作ろう!!　ファミリｅルール」

千寿桜堤中学校開かれた学校づくり協議会は、中学生の携帯電話の取扱い方法について、東京都ファミリｅルール事務局の須藤講師から、コミュニティサイトの罠、ネットいじめやサイバー犯罪などの講演をいただきました。

近頃の携帯電話の機能の多様化には驚きと共に恐怖を感じました。いくつかの実例を基に、便利さとは別の弊害を学び、問題解決の難しさを知りました。

小中学生の携帯電話の使用には、以下のようなルールが必要です。

① 具体的で守り易い
② 子ども自身に宣言させる
③ ルールが守れなかったときの約束も決めておきましょう

自由には、責任が伴うことが理解できるようなルールづくりの機会として捉えていただきたいのです。

東綾瀬小２年　紺野史真　作

しかし、良好な人間関係の基本は、フェイス・ツー・フェイスでコミュニケーションを行うべきであり、携帯電話の使用は最小限、緊急の際の手立てとして活用することを再認識いたしました。

（常東地区　加藤鈴子　記）

東加平小３年　藤巻佑菜　作

中学生俳句コーナー

キャンプ場
炭の命が　飯を生む
一年　河上　瞬

独り占め
北風負けぬ　火の力
一年　石毛　沙希

かまどには
命を燃やす　まきがれき
一年　デセナ　ミチコ

公園の
おしゃれできない　枯木たち
一年　中島　龍二

息つけば
ジワリと浮かぶ　冬の汗
一年　長谷川美弥

足立区立栗島中学校

足立区は活動記録提出100％継続中です

よろしくお願いします　西野知之　新福祉部長

民生・児童委員の皆様におかれましては、日頃より足立の福祉のために多大なるご尽力を賜り、またご指導をいただき、誠にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

今、人と人の結びつきがますます希薄になったと言われています。いわゆる孤独死の増加、そして「無縁社会」という言葉も生まれました。

高齢者の見守りはもちろん、地域の「縁」なくしては、安心して住み続けることのできるまちを築くことは出来ません。今、この「縁」を確かなものとし、「絆」を強めていくことが、求められています。

まさにこういった状況の中で、地域の要である民生・児童委員の皆様の活動が、ますます重要になっています。

私どもも、この課題に全力で取り組んでまいります。そして皆様方と手を携え、安全で安心な福祉のまちづくりを更に推進してまいりたいと考えておりますので、引き続きお力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申しあげます。

お世話になりました　有賀純三　前福祉部長

平成23年3月末をもって、足立区役所を定年退職いたしました。

福祉部在職中は、民生・児童委員の皆様の温かさと心意気に満ちた活動ぶりに深い感銘を受けました。

このような方々とご一緒に仕事ができましたことは、区役所生活の中で最も印象深いものとなりました。ありがとうございました。

このたびの東日本大震災における、被災者の皆様の規範意識の高さや忍耐強さ、思いやりの心などが、諸外国から驚きと賞賛を持って注目されています。

失われつつある「地域の絆」の再生に希望が持てる気がする一方、平時の東京でもその底力が発揮されるのかという疑問もあります。

しかし、座して嘆くばかりでは何も変わりません。なんといっても、行動あるのみです。

4月から社会福祉協議会で、支えあいを地域に広げる仕事に取り組んでいます。今後ともよろしくお願いいたします。

足立区民生・児童委員協議会OB懇話会

2月24日（木）足立区役所内レストラン・ピガールに於いて、足立区民生・児童委員協議会OB会が開催されました。この第3回総会は、出席者81名、高野恒幸氏の司会で、関根会長の挨拶に始まり、役員改選等の議事が行われました。以下、新役員です。

会　長　　猪俣勝美
副会長　　安藤順子　　宮田壽美子
総　務　　山田智恵子
　　吉田幸雄（現役　第二合同会長）
会　計　　江原正太郎　清水一弥

各氏の紹介があり、「今後もOB会は地域社会とかかわりをもち、足立区の福祉活動に協力して3年間運営していきます」との会長の挨拶がありました。

その後、当会場において懇親会を行い、終始なごやかな雰囲気の中での交歓の場となりました。

（広報／3地区　池田信江　記）

編集後記

地震時、東北道、岩槻あたりを走っていました。「ファーファー」と浮いている感じで地震と分かり、すぐ車を左側に止めて様子をみました。そんな中、追い越し車線を猛スピードで走る車も多くみかけました。幸い我が家は被害が少なく、すぐ見守りに出かけました。

友人の家に避難している方、家に閉じこもる方、外でうろうろしている方、いろいろでした。今回、民生・児童委員として見落としはなかったか、もっと他の方法もあったのではないか……と思っています。皆様はいかがでしたでしょうか？

（広報／7地区　井上みよ子　記）

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校へ順番にお願いしております。また、皆様からの原稿も募集いたしております（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日　11月1日

なお、原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談下さい。

広報部会

部会長　宮本勝男
副部会長　川島恵美子
書記　渡邊照美
会計　池田信江
編集　森春枝
校正　秋本雅信
レイアウト　薮下奈穂美
編集委員　北村信也　鶴田晴久　木内信雄　加藤宏一　松島勝己　阿部美代子　千葉祐子　金子みどり
校正委員　江川明美　粟野昌子　河邊セツ　井上みよ子　梶宏次　鈴木靜江　関根恵子　北川富美子　小島千恵子　栗原和子